

卒業に寄せて

「報恩謝徳」という言葉があります。

「受けた『恩』に報いること、これまでいただいた『徳』に対して感謝すること」という意味で、私が大切にしたいと考える言葉の一つです。

ただ、これまで恩を受けたすべての人にお返しをしようと考えても、その恩はあまりにも大きく、返すことなどできません。私自身、多くの方から恩を受けてきました。その量はあまりにも膨大で、残りの人生をすべて投げ打っても返せる量ではありません。今となっては、返したくても返せない人もたくさんいます。

いつからか私は、「恩を受けた方々にその礼を返せないのであれば、これから出会う人たちにその恩を返していこう」と心の持ち方を変えました。

恩を受けるたびに感謝を伝えてきたつもりではありますが、まだまだ足りない。今更ながらにその人から受けた恩に気づき、お礼を伝えなければと考えるものの、二度と会えない人もたくさんいる。

だから、自分の思いつく範囲の中ではありますが、これから出会う人に対して、これまで受けた恩を返せるように真っ直ぐに、誠実に接するように心掛けよう、と考えるようになったのです。

君たちは、これからたくさんの人と出会う。

その出会いは喜びだけではなく、辛さや苦しみを伴う出会いがある。自分自身の失敗で相手を傷つけてしまうこともある。それとは逆に、理不尽な要求に自分自身が傷ついてしまうこともある。

もし、そこで下を向いて立ち止まってしまったら、それまでに出会った人たちから受けた恩を返せなくなる。だから、その失敗や傷を次の出会いの糧にするべきではないか、と私は考えるようにしているのです。次を見つめるのです。

「あなたの長所はどのようなところですか？」
こう聞かれて、

「はい、自分の長所は、〇〇です。」

と胸を張って答えられる人は稀（まれ）です。

ほとんどの人は、自分の短所ばかり目について、

美しい16の未来へ

良いところなんて思いつかない。

むしろ私たちは

「自分にはこういうところが必要だ」

「自分にはこういう面が足りない」

「もっとこういう自分になりたい」

「この短所を克服したい」と足りないところばかりに目が向く。自己肯定感なんて感じない。

では、なぜ、私たちはこんな風に自分の足りないところばかりに目が向いてしまうのでしょうか。

その問に対して私は、

「君が前を向いているからだ」と答えたい。

自分に必要なものがあるから取りに行く。

足りないと感じるから求める。

目的があるから歩を進める。

短所があるから克服しよう、補おうという気持ちになる。

失敗をしたから次の成功に向かって頑張る。

そしていつか、「必要なもの・足りないもの・目的・短所」を見つめて人生を歩んでいくうちに、ふと振り返る瞬間が訪れる。すると、君の後ろには「これまでたどってきた道のりや景色」が見えるはず。

そのとき初めて、他の人は持っていない、君だけの素晴らしい光景（人間性）に気付けるときがくるのだと思います。

さあ、人生はこれからです。様々な失敗を繰り返し、一步一步、歩んでください。これまで出会った人に恩を返そうなんて考えなくてよい。そもそも返せるはずがないのです。

君が恩を受けたすべての人は、君の心を支え続ける応援団です。人生のすべては「過去」ではなく、「未来」につながっている。たくさんのお会いが、数多（あまた）の失敗が、すべての経験が、君の人生を美しく彩るのです。胸を張って前を向いて歩み続けてください。

君が歩む道のりを、これからの出会いを、君が振り返ったときの美しい光景を、輝ける未来を、心から応援しています。